

まちのアートスポットをご紹介します。

●44 鈴木写真館

大正6年創業。外壁や、入り口まわりの装飾が、散策する人々の目を、楽しませてくれます。NHKの連続テレビ小説「なっちゃんの写真館」で、内部の様子や機械などがモデルになりました。



Tel.048-822-2712

●45 柳沢画廊

1984年に開廊した浦和の現代美術ギャラリーの老舗。国内作家のほか、ホルスト・ヤンセンやジョン・グラーハムなど海外作家の展覧会も、さまざまなゲストとアートを語り合うトークイベントなども随時開催しています。Tel.048-822-2712

●49 浦和駅前

浦和の玄関口は、多くのアートに彩られています。コソの壁面には、高田誠作のサクラソウのモザイク画が、ロータリーの「飛翔」(吉野康彦、岩田健、細野稔人作)、「武者群像」(滝川毘堂作)、駅西口正面の「浦和うなこちゃん」(やなせたかし作)等。和菓子屋さん「花見」の店舗には、人間国宝増田三男デザインの看板がかかっています。



▲高田誠作のサクラソウのモザイク画



▼花見の看板

●58 青山茶舗・楽風★

江戸時代末頃から続くお茶屋さんです。庭も含めて、いい佇まいが残っています。明治24年の蔵を改装した「楽風(らふ)」(写真)は、1階が日本茶を中心とした喫茶、2階がギャラリーになっています。Tel. 048-825-3910



●61 調(つき)神社

古代創建の古社で、つきのみやと呼ばれています。鳥居がないなど「調神社の七不思議」が伝えられています。堂々たる社殿は、安政6年(1859)の建築。写真は、享保18年(1733)の旧本殿で、市の文化財の指定を受け、現在は稲荷社として拝されています。うさぎの彫刻を多く用いて月待信仰との関連が表現されています。境内には長谷川かな女の句碑や、調公園に中野四郎作の「慰霊碑」があります。

●71 別所沼、ヒアシンスハウス★

市民の憩いの場、別所沼は、アート作品目押しです。中野四郎の彫刻「掛けた女」、神保光太郎の詩碑、長谷川かな女の句碑、メキシコ広場など。太田額縁店や萬店の存在も忘れられません。ヒアシンスハウス(写真)は、夭折した詩人・建築家、立原道造の夢が、70年あまりの年を越えて、市民活動として実現されたものです。地域の文化活動の新たな拠点となること、目指されています。



★さいたま市景観賞・景観協力賞を示す。

URAWA ART MAP

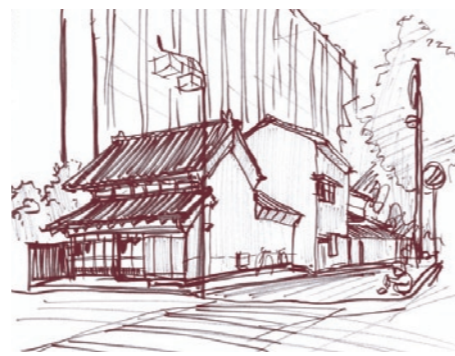
アート散歩のすすめ

浦和は、歩きやすい街です。中山道の宿場町として発展してきたため、街を貫いている中山道が南北の軸を示し、迷うことはありません。江戸時代からの裏道も残っており、自然にくねくねと曲がって、歩きながら景観が展開していく様を感じることができます。そんな街空間には、明治までさかのぼる建物も含めて、各時代の文化を反映した建築物が散見できます。

また、浦和には、昭和初期に多くの画家や文化人が移ってきたため、美術や文芸の香りを演出することができます。県庁所在地として、学校が多く、教育・文化の中心であり続けていることも、アートが育つ下地として考えられるでしょう。

そんな浦和を感じるには、散歩がベスト。スケッチブックでもカメラでも、この地図も忘れずにバッグに入れて、歩きやすい靴で出かけてみませんか。ギャラリーなども覗いて、カフェでの一休みもお勧めです。

紙面の都合で紹介できなかったスポットが、まだまだたくさんあります。あなたのお気に入りを見つけ、加えてください。



市場通り角の町屋 スケッチ:青山恭之

URAWA ART MAP

執筆・編集:うらわ建築塾(青山恭之)
デザイン:有限会社アームズ(中村隆)
鳥瞰図提供:見沼100年構想の会(作・友利宇景)
印刷:光村印刷株式会社
発行者:埼玉県立近代美術館 / 「LINK!ミュージアムからアートの風を!!」実行委員会
埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1 Tel.048-824-0111
発行:平成21年3月
平成20年度文化庁芸術拠点形成事業(ミュージアムタウン構想の推進)

LINK! ミュージアムからアートの風を!!



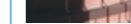
歩く。知る。探す。

URAWA アート散歩

建築物から画廊・カフェなど、

●02 本太氷川神社旧本殿

慶安3年(1650)と、浦和の街中では最も古い建築とされています。見世棚造りと呼ばれる、簡素で実直な様式です。昭和44年、それまで覆屋のなかで人目に触れることのなかったこの建物が見出され、それ以降、浦和近辺で見世棚造りの神社本殿が多く確認されるようになりました。地域の建築文化を考える上で、貴重な遺産です。県指定有形文化財。非公開。



●14 埼玉県立近代美術館

旧制浦和高校、埼玉大学文学部・教養学部の跡地に、黒川紀章の設計で、昭和57年に建てられました。郷土の作家たちの作品に出会えます。椅子の美術館としても有名です。館のある北浦和公園内には、多くの彫刻作品や、作曲家下總皖一の記念碑、音楽噴水などがあります。また、旧制浦和高校正門の門柱が残されています。

●27 浦和センチュリーシティ

明治22年、ここに浦和町役場が開かれ、昭和9年から同46年までは浦和市役所が置かれていました。平成11年に、日建設計の設計で、ホテルなどの複合ビルとして生まれ変わりました。「うらわ美術館」が3階に入っています。仲町交差点に面して、「重力環一赤/うらわ」(内田晴之作)が、西側には、「旧市役所跡記念の碑」がたっています。



●40 ART SPACE 717

趣のある裏通り沿いの画廊&カフェ。絵画、版画、ポスターなど多彩なジャンルのアート作品に囲まれて、散歩の後のゆったりとした時間を楽しむことができます。企画展のほか、地元作家の作品にも出会えます。ランチタイムは、お得なセットメニューが人気。夜は8時からバーに変わります。Tel.048-834-5480



●41 玉蔵院

浦和の街の中心部に位置する古刹です。地蔵堂は、安永9年(1780)と年代が明らかで、重厚な構造と華麗な装飾の日本建築で、市の文化財に指定されています。山門は、江戸時代後期の大規模な四脚門で、これも市の文化財に指定されています。建築以外にも多くの文化財を有し、石柱「守護侍不入」も、この寺の権威を表しています。枝垂れ桜でも有名です。



●43 埼玉会館

この地は、近代浦和の建築にとって、最高の舞台であり続けてきました。初代は、明治11年に建てられた埼玉県師範学校。後に三条実美により「鳳翔閣」と名づけられた本格的西洋建築でした。続いて大正15年、その建物を北に移築して建てられたのが「埼玉会館」で、岡田信一郎の設計による斬新な建築でした。そして、昭和41年に建てられた現在の「埼玉会館」。前川國男により、敷地の高低差や、周辺環境を見事に解釈して設計された名建築です。映画「砂の器」のロケで、この大ホールが使われました。多田美波作の彫刻「珠」が現代を映し出しています。

